

Shono Street

庄内農業高等学校 図書館だより

R3 No.7

10

2021.10.25

読書週間 はじめて物語

10月27日(水)～11月9日(火)は『読書週間』です。その第1回が始まったのは、終戦間もない1947年(昭和22)のこと。「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」と、出版社・取次会社・書店と公共図書館、新聞・放送のマスコミ機関も加わって11月17日から開催されました。翌年の第2回から今の期間に定められ、この運動は全国に広がっていきました。

2005年(平成17)には、『読書週間』が始まる10月27日が、「文字・活字文化の日」に制定されました。

電子メディアの発達する世の中で、新しい感覚での“本との付き合い方”を取り入れていく方法があってもいいかもしれません。

図書視聴覚委員会では、読書週間にに向けて制作したポスターの掲示をしています。どうぞご覧ください!!



「朝の読書」感想ピックアップ!

「朝の読書」の時間に皆さんが読んだ本の感想を少し紹介します。すでに読んだことのある本、これから読む本の感想などいろいろです。共感、新たな視点からの発見があるといいですね。

『クモの糸の秘密』 大崎茂芳著 クモの糸は細くても同じ太さのナイロンよりも強いということを知りました。糸の色は周囲の色に似せて昆虫を捕獲することも分かった。(1A 男子)	『英語で読み解く賢治の世界』 ロジャー・パルバース著 英語の勉強が少しできて、賢治の努力した様子がわかりました。英単語一つ一つにたくさんの事が書いてあり参考になると思います。(1A 男子)
『福祉ってなんだ』 古川考順著 社会福祉施設をたくさんの人々が利用していることがわかりました。私が心を痛めたのは、児童福祉施設の利用者数が多いことです。(1A 女子)	『17歳の殺人者』 藤井誠二著 自分が「ムカつく」だけで人を簡単にあやめてしまうことを被告人の自己中心的な行動に腹が立ってしまうような作品でした。(1B 女子)
『宇宙に行くニャ!』 山田ふしぎ著 宇宙が大好きな猫たち。宇宙旅行を成功させるために、ロケットの飛ぶしくみなど色々な実験をします。とても読みやすいです。(1B 女子)	『イラクの戦場で学んだこと』 岸谷美穂著 銃声音のする中、貧しい子供達のことなどについて岸谷さんはスタッフとして頑張っているなど感動しました。(2A 男子)
『オルタネート』 加藤シゲアキ著 NEWSの加藤シゲアキさんが、「青春」をとても面白く楽しそうに書いています。何度も読み返したいいい小説でした。(2A 女子)	『校閲ガール』 宮木あや子著 憧れのファッション雑誌の編集者を夢見る主人公の根性と気合と雑誌愛に満ちた物語。とても心が熱くなりました。(3B 女子)

《 注意 》 「朝読書」の本は教室から持ち出さないでください。

New Books



☆は、リクエスト本。ほしい本があれば図書館まで

『国語をめぐる冒険』



国語には未知の世界や存在が溢れている。恐れず一歩踏み出せば、新しい出会いと成長への機会が待ち受けている。国語を使う
どう生きるかを語っている。

渡部泰明ほか
岩波書店

☆『軍国美談と教科書』



今では考えられない軍国主義の教育について詳細を記述。軍事教材の歴史をたどりつつ、民衆と戦争、軍部と教育の関わりについて解き明かす。

中内敏夫
岩波書店

『おれたちの歌をうたえ』



真っ白な雪と死体。40年前のあの日、何があったのか。今になって届いた友からの謎かけが、元刑事の魂を揺り動かす。友情をあきらめなかった男たちの物語。

呉勝浩
文藝春秋

『解きたくなる数学』



論理の組み立てと思考のジャンプを体験！ひと目で心を奪われる問題ばかり。数学が苦手な人も得意な人も魅力的な写真とグラフィックの表現に、きっと夢中に。

佐藤雅彦ほか
岩波書店

『ぼくはイエローでホワイトで…2』



「ぼく」は13歳になった。日常は騒がしいが、心を動かされる色々な出来事を経験するたび、「ぼく」は大人への階段を一つ一つ昇っていく。

プレイティみかこ
新潮社

『透明な螺旋』



房総沖で男性の遺体が見つかった。失踪した恋人の行方をたどると、関係者として天才物理学者の名が。草薙は、横須賀の両親のもとに滞在する湯川を訪ねる。

東野圭吾
文藝春秋

『新型コロナ7つの謎』



21世紀初めのパンデミックを引き起こした新型コロナに人類はどう立ち向かったらいいのか、最新の科学データを元に書かれている。

宮坂昌之
講談社

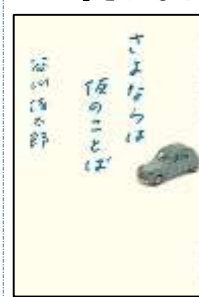
☆『新しい料理の教科書』



定番の当たり前を見直す料理本。今と昔で食材が違うから、その時代でベストな料理法は変わって当然。今までと違う味わいが楽しめそう。

樋口直哉
マガジンハウス

『さよならは仮のことば』



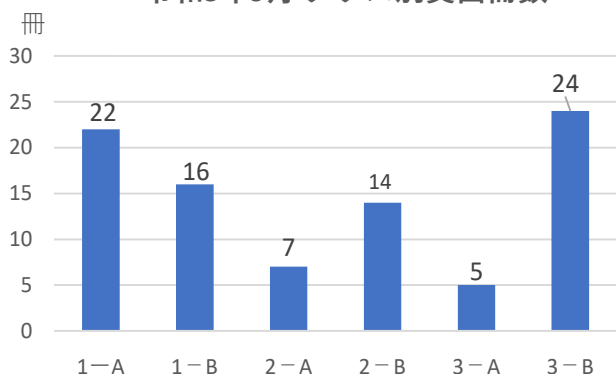
著者は19歳でデビュー以来、70年にわたって言葉の可能性を追求し続けてきた国民的詩人。詩を書くことは、人間としての著者の成長でもあった。

谷川俊太郎
新潮社

9月の図書貸出状況

9月の図書貸出総数は全校で112冊でした。内訳は、生徒への貸出数が88冊、教職員への貸出数が24冊です。

令和3年9月 クラス別貸出冊数



令和3年9月 学年別貸出冊数

